

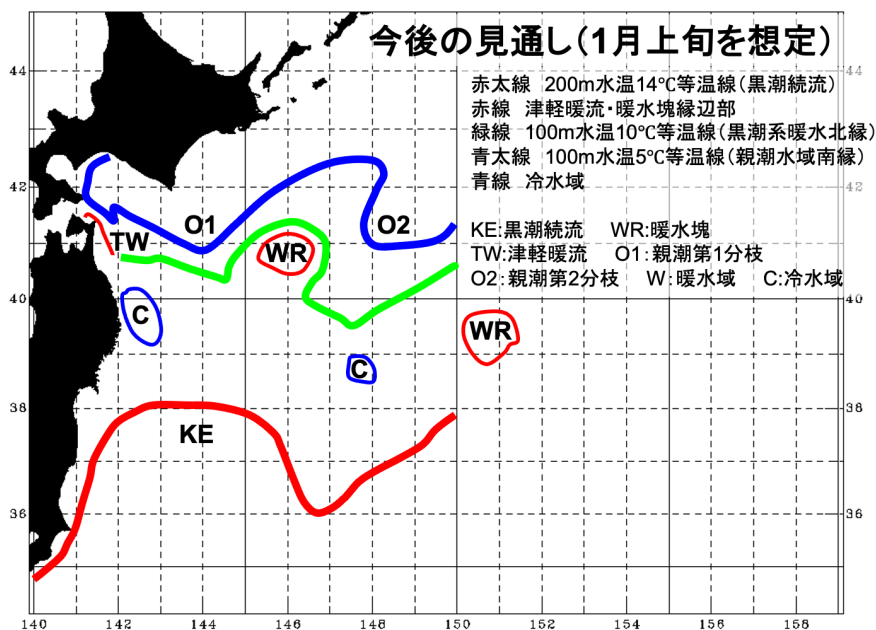


2022年度 第4回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2022年12月中旬～2023年1月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並みで推移する。
- ・ 三陸沖の暖水塊は北東に移動する。三陸はるか沖の暖水塊は停滞する。
- ・ 金華山はるか沖の冷水域は残る。下北半島沖の冷水域は三陸近海に移動する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：企画調整部門（横浜） 上原
海洋環境部（塩釜） 川端、長谷川
電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/>

2022年度 第4回 東北海区海況予報

《今後の見通し（2022年12月中旬～2023年1月）》

近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並みで推移する。三陸はるか沖の暖水塊は停滞し、三陸沖の暖水塊は北東に移動する。金華山はるか沖の冷水域は残り、下北半島沖の冷水域は三陸近海に移動する。

《海況の経過（2022年9月～2022年11月中旬）の特徴》

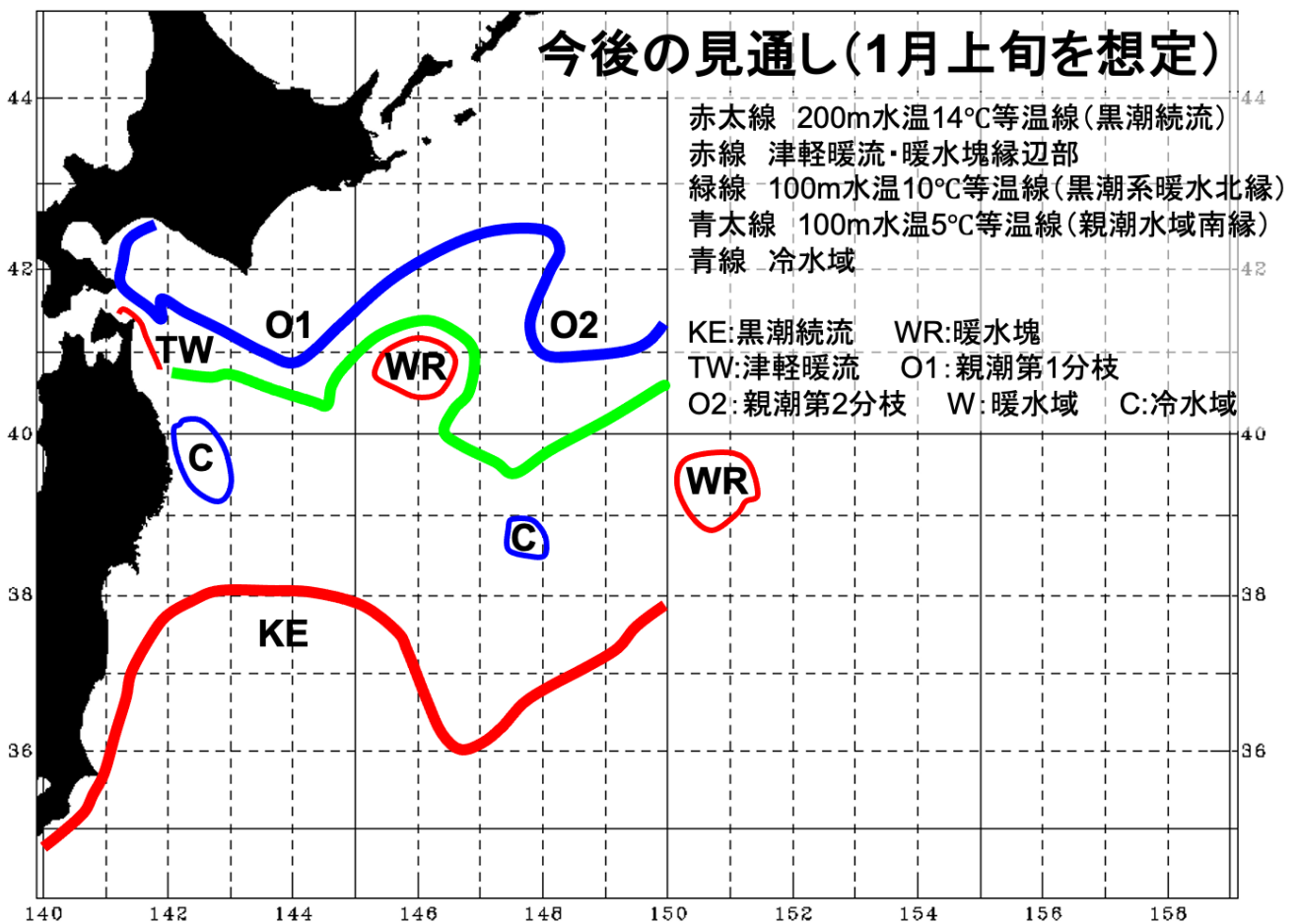
近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～極めて北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しはやや南偏～かなり北偏で推移した。三陸はるか沖の暖水塊は停滞し、下北半島沖の暖水塊は消滅、金華山沖の暖水塊は三陸沖に移動した。金華山はるか沖に冷水域があり、下北半島沖に冷水域が出現し、その後消滅した。

《現況（2022年11月下旬）の特徴》

近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏、親潮第1分枝の張り出しは平年並みである。暖水塊が三陸はるか沖と三陸沖にある。金華山はるか沖と下北半島沖に冷水域がある。

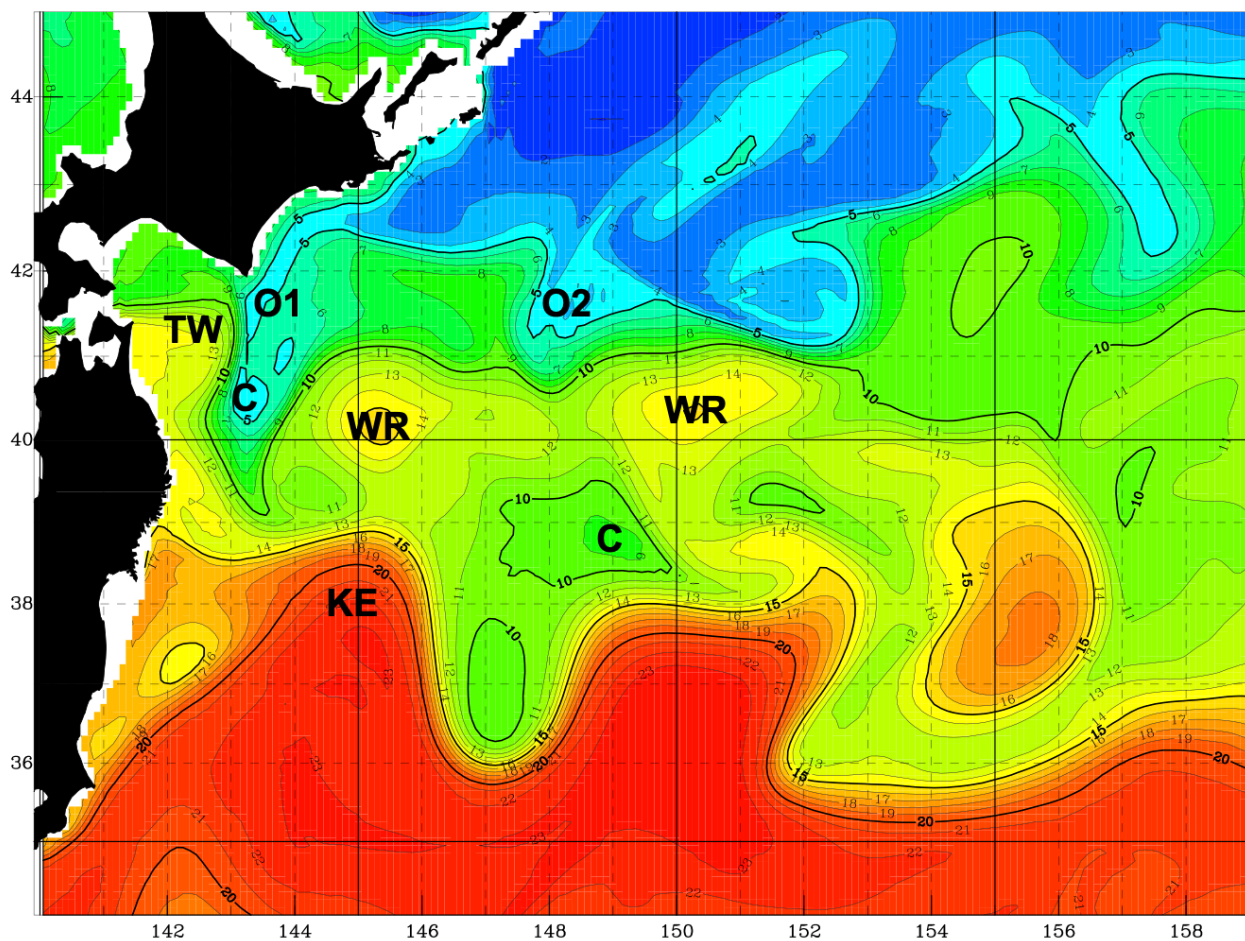
（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMS IIシステムを用いた。FRA-ROMS IIは、我が国周辺海域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

1月上旬予測水温分布図



11月下旬現況水温分布図 (100m深)

TEMPERATURE AT 100m DATE: 2022/1121 - 2022/1125



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	--